

Miyoshi

MIYOSHI TOWN
INFORMATION
Check it!

三 広報 みよし

今月の広報みよしは <子育て特集>

「笑顔で繋ぐオヤココミュニティ」

未来をともに。愛しい君へ。

3

Mar 2012
No. 901

今月の表紙：緑地公園で開催した「おひさま広場」
みんなでシャボン玉を作って遊びました



未来をともに。愛しい君へ。

「笑顔で繋ぐオヤココミュニティ」

「コミュニティ」
共同体、地域という意味を持つこの言葉。
みんなが笑顔で子育てを。地域全体でサポートを。
町ではコミュニティを展開し、子育てのお手伝いをしています。



相談相手がいない…

都市化や核家族化等が進み、地域の繋がりが薄れてきています。そのため、子育ての困難に直面しても相談できる相手や手助けしてもらえない相手がいないというケースが増えています。

5年間で15倍に増加した虐待相談

幼い子どもに何度も暴力をふるい死亡させてしまったり、離婚後新しい男性との同棲を始めて、前の夫との子どもに夫婦で食事を与えず死亡させてしまうなど、新聞やテレビのニュースなどで、このような凄惨な事件が多く見受けられるようになりました。

県内の児童相談所に寄せられた虐待相談処理件数は、平成22年度は3449件となり、5年前に比べて1.5倍に増加しています。

育児放棄や児童虐待につながる家庭の状況には、母親の精神疾患・ひとり親家庭・経済的困難とともに、親族・近隣・友人からの孤立が大きな要因として挙げられます。お母さんが一人で負担を背負い、孤立感を深め、

その精神的な不安やストレスが我が子に向けてしまっていることが社会全体の問題となっています。

男性の育児休暇取得率はわずか約1.4%

仕事を一度辞めたら再就職が難しい現在。育児休業を取得し出産、育児にと臨む人が多くなっています。

平成22年度の雇用均等基本調査によると、女性の育児休業取得率は83.7%。男性の育児休業取得率は1.38%となり、依然と男性の育児休業取得率は低水準となっています。

近年は「イクメン」と称し、積極的に育児参加をするお父さんも増えてきていますが、調査結果から見ても、まだまだ子育てはお母さんの力を頼っているのが実情です。

三方町ができること

妊娠中の不安なとき、育児の悩みがあるときに、ママ友や相談相手がいたらどれだけ心強いでしょうか。町ではそのきっかけづくりのお手伝いや、子どもたちが笑顔で遊べる様々な事業を行っています。



02 学んで覚えて、ママ友も作れる教室

引っ越してきたばかりで近所に知り合いがいない、同じ月齢くらいの子どもを持つ知り合いがほしいといった悩みを持つ方に人気の教室です。【問い合わせ】保健センター☎258-1236



Mama'sTime (両親学級)

01 ママになる実感を両親学級で分かち合う

いよいよママになる実感が湧いてくる妊娠中期、妊婦生活を楽しく安心して過ごせるように、Mama's time (両親学級) を開催しています。【問い合わせ】保健センター☎258-1236

赤ちゃんを授かった喜びと不安

お腹の中で動きを感じた頃からママになると感じたり、健診の時に超音波で子どもの映像を見ながらママになると感じたり……。これから出産をし、子育てが始まる喜びと不安。妊娠中は何を気を付けたらいいのか、赤ちゃんにどうやって母乳をあげたらいいのか、沐浴なんてやったことがないなど、不安が尽きない時期を楽しく安心して過ごせるお手伝いを町では行っています。それが両親学級です。

夫婦で赤ちゃんを迎える準備

ママだけでなく、パパも参加できるこの学級。参加者からはこんな声が届きました。「主人に、育児に対する意識を高めてもらうため、沐浴実習と一緒に体験して欲しかったので参加しました。貴重な体験することができ、主人もパパになる実感ができてきたみたいです。」病院でも、同じような講習があります。参加者が多く、話がいよいよ孤立してしまうこともあるようです。

「ほっとサークル」はどんなところ？

0歳のねんね時期の子を持つママは、子どもと出掛ける準備や授乳が大変で、なかなか外出ができず家に閉じこもりがちになります。そこで町ではほっとサークル(育児学級)を開催し、生後2〜4か月児の乳児とその家族を対象として、子育て講話や離乳食の始め方などを学びつつ、同じ月齢の子どもを持つ家族との交流を深めてもらうため、フリータイムを設け仲良くなる機会をつくっています。

参加したママたちに聞きました！

「ほっとサークルに参加してみていかがでしたか？」
「離乳食の始め方の話を聞き、



離乳食の作り方を赤ちゃんと一緒に勉強



「病院の講習も受けましたが、参加人数が多く講師に質問も出来ない状態でした。でも、この両親学級は少人数制なので、周りの人や講師に気軽に声をかけやすく、楽しみながら講習を受けられることができました。」



近所ママ友どころか、お友達がいまです。

また、この学級の特徴のひとつに、出産前に「ママ友」が作れることです。病院の講習では、隣になった人が必ずしも近所の人とは限りませんが、両親学級では必ず町内のママ友を作ることができます。



管理栄養士を交えたフリータイム

普段はとらない『天然だし』を取ってみようと思いました。「離乳食の試食は、子どもに与える食事を目で見て、柔らかさを舌で確認できて、とっても勉強になりました。」

参加者の半数が「ママ友がほしい」

参加者にアンケートを行ったところ、「ママ友がほしい」と答えたママが半数を占め、同じ気持ちを持共有する仲間を必要としている人が多いことがわかりました。その中の一人の声です。「2人子どもがいて、下の子の遊び友達欲しかったことと、同年代のママ友が欲しかったので参加しました。」

昨年、三芳町内に誕生した赤ちゃんは289人！

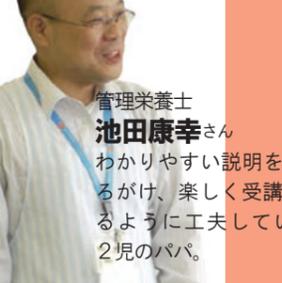
過去5年間の出生状況

年	出生数(人)
2007	291
2008	291
2009	295
2010	299
2011	289

三芳町に誕生した赤ちゃんの統計を上記のグラフに表しました。この5年間、300人弱の出生で推移しています。

LECTURER'S VOICE

の声



「食でつなぐ家族のコミュニケーションを大切に」

両親学級、育児学級ともに年々参加者が増え、参加者のニーズも時代とともに変化しています。最近では、地域のママたちとの繋がりを求めてくる参加者が多いため、情報を教えるというよりも「地域で行う学級の意味」を考えながらプログラムを考えています。食卓を囲み家族一緒に食事することで、学校であったことや、悩んでいることを話合ったりするだけでなく、子どもの「変化」を読み取ることができます。食を通じた家族のコミュニケーションをぜひ大切にしてください。



から、この学級を通じて、ママ友ができたらいいなと思いましたが、両親学級で、出産前と同じ気持ちでいるママ友ができれば、辛い時や、苦しい時にお互いに支え合えることができるのではないのでしょうか。今回の取材後、参加者の方から後日メールが届きました。「両親学級がきっかけで、参加したみんなで食事を開くことになりました。このつながりを大切にママになる喜びをみんなに分かち合いたいです！」





ファミリーサポートセンター

03 子育てを地域で助け合う

子育ての援助を受けたい人と、援助する人の懸け橋となる組織が「ファミリー・サポート・センター」です。どんなことができるのか、どんな人が利用しているか。皆さんご存知ですか？



同じ年頃の孫と触れ合える喜び

「私には結婚している二人の子供がいて、1人はニューヨークに、もう一人は千葉に住んでいます。二人とも子供がいます。遠方のために、なかなか孫に会う機会がありません。早くに主人と死別してしまつたので、孫と同じ年頃の子どもとコミュニケーションをとることができて、嬉しいし、楽しいです。」という笑顔で答えてくれた藤久保在住の辻ひるみさん。その辻さんの手にはしっかりと握りしめた

子供たちの手がありました。ファミリーサポートセンターとは？

ファミリーサポートセンター。通称ファミサポと呼ばれるこの事業を皆さんはご存知でしょうか？
子育てを手助けしたい人（提供会員）と、手助けをしてほしい人（依頼会員）が会員となつて、地域の子育てを助け合つていく組織、それがファミサポです。現在会員数は408人、昨年4月から12月までの依頼は2123件、およそ1日10件の利用があります。

一番多い利用は、保育所や幼稚園の送り迎えや帰宅後の預かりです。その他には、習い事の送迎、保護者等の短時間・臨時的就労、外出・病気・急用の場合等の援助など、様々な活動を



ファミサポがあるから仕事ができる

「この子たちを夕方まで藤久保学童保育所に迎えに行つて、私の家で夕食を食べ、だいたい8時頃にママが迎えに来てますね。食事には気を使い、のどに詰まらせないように注意をしています。」

辻さんがサポートしている宮内佑佳ちゃん（8）、芳世くん（5）の二人は辻さんが作る料理が大好きで、「カレーと手作りのお寿司がおいしくて大好き！おばちゃんと一緒に作っているんだよ。」と佑佳ちゃんは教えてくれました。

サポートする辻さんと、サポートされる子供たち。サポートが始まり1年近く経ちました。一番印象に残っているのは東日本大震災が起こった日のことだそうです。それは子供たちの母、裕美さんも同じでした。「震災の日には電話で連絡をとることができずに不安でした。連絡手段がないため、確認のな

いまま辻さんのお宅に行つたところ、子どもたちを預かつてくれていてホツとしました。」
共働きの宮内さん夫婦は、実

家が奈良と高松にあるため、親に頼ることができません。そこでファミサポを利用することを考えたそうです。

「子どもたちは私が家にいると、今日は預かりの日じやないの？」と聞いてくるほど、辻さんと会つて遊んでもらうことを本当に楽しみにしています。私自身も、ファミサポがなければ仕事を続けることが難しかったと思います。ファミサポはなくてはならない存在です。」

信頼関係の先にある安心感

サポートする側とサポートされる子供。双方が絆でしっかりと結ばれていて、信頼関係が構築

サポートする人

北永井在住
中山四郎さん
【サポート歴】6ヶ月
【趣味】登山・グラウンドゴルフ



こどもから「生きる活力」を。おとなから「知恵と経験」を。

小学生の2人のお子さんを、朝は登校班の集合に間に合うように自宅のチャイムを押して声をかけ、夕方は学校から町外の学童へ車で送迎しています。

最近では、サポートする子以外の子どもたちも私に慣れて、大きな声で「おはようございます！」と挨拶を交わしてくれるようになりました。

子どもとふれあうことで、大人は生きる活力の源となり、子どもは大人から知恵や経験を学ぶといった循環が出来れば良いと思って活動しています。私と同世代の皆さんにも、ぜひ参加してもらいたいです。

問い合わせ：ファミリー・サポート・センター ☎(258)0075



三芳町内3つの児童館

04 親子で遊べる自遊空間

三芳町には「藤久保」「北永井」「竹間沢」の3つの児童館があります。親子で遊べるイベントも企画し、毎回多くの方が参加します。児童館のイベント情報・問い合わせは、P21の子ども通信のページをご覧ください。



写真は北永井児童館で行われた「あそびのへや」に参加した皆さん。この日は親子で自分だけの風を作りました。

本の魅力と出会う図書館

05 赤ちゃんから絵本を！

「ブックスタート・ブックスタートプラス」

図書館では、子どもたちが楽しめるイベントを行い、本の魅力を子どもたちや保護者に伝えています。

図書館の子ども向けイベント情報や問い合わせはP20をご覧ください。



住民一人当たりの貸出冊数が県内一番だということ、皆さんご存知でしたか？

このほかにも、ぐりぐらタイムなど、おすすめ本を楽しく紹介するイベントを行っています。





なかよし広場

06 育児雑誌より 身近な子育て情報

0歳から親子で交流でき、子育てのことだけでなく家族のこと、ママたちが相談できる場であり、気分転換にもなる場です。



親子でふれあう場

子育て支援センターでは、月1回開催される「おひさま広場」おでかけなかよし広場」では、運動会やしゃぼん玉遊びなど誰でも自由に参加できるイベントも行っていきます。親子のスキンシップが図ることができて、子どもの成長にも繋がります。

また、子どもを遊ばせながら、相談に応じる「ひだまり」を実施し、子育てや家族のことなど、何でも気軽に話が出る場となっています。スタッフと話をすることで、ストレス発散や気分転換になっているママが多いようです。では、実際に参加しているママたちの声を聞いてみましょう。



「参加したきっかけや感想を聞かせてください。」

ママたちの声



小林 由希さん
れん 玲心ちゃん(8か月)

上の子を遊ばせたい

子どもが2人いるので、一人で面倒を見るのが大変！ママ友とおしゃべりしたり、上の子を遊ばせたくて参加しています。



三瓶 輝子さん
たいき 大樹くん(1歳10か月)

初めは緊張！

子どもを人に慣れさせたくて参加しています。初めは緊張していた息子も、今では自分から積極的に遊ぶようになりました。



鷹野 愛さん
わたる 巨くん(1歳)

ほっとサークルの出会い

ほっとサークルで仲良くなったママ友に誘われ参加するようになりました。ママ友たちと話をすることで、気分転換になります。



吉田 育実さん
とこ 心菜ちゃん(1歳2か月)

親子で仲良くなれる

三芳町が地元でないで、近所の友達を作りたいと思いついて参加しました。親子で仲良くなれるところが気に入っています。

初めの勇気が 親子の笑顔に繋がる

初対面の人と話するのが苦手な人や、子どもが見知りや泣いてしまうのではないかなど、不安でこのような場所に行つたことがないママもいることでしょう。子育て支援センターに来てママたちのほとんどは、初めは一人です。

取材の日も、初めて子育て支援センターに訪れた親子がいましがスタッフ皆さんに紹介をし、ママたちの輪に入りやすいように声をかけていました。初めの一歩を踏み出し、親子でふれあい遊びを楽しんでみませんか。

オヤコミュニティ

同じ月齢の子を持つママが集う場所だからこそ、共感できることがあります。子育ての喜びも苦しみも、みんなで分かち合うことで少しでも気持ちが楽になります。

コミュニティ。ママと子、そしてママ同士の間には、情報誌や育児本では得られない「絆」がこの場所にはあります。

覚えていますか？

赤ちゃんを授かった時の喜びを。

覚えていますか？

子どもを愛おしく感じた日々を。

子どもに「パパ・ママ大好き」「家族で一緒にいるときが一番幸せ」と感じてもらうには家族全員が「笑顔」でいることが大切です。

子どもは、「宝」。町や地域の将来を担う大切な存在です。

一人で悩まず、地域全体で子育てをしていきましょう。

そして、ママ同士のコミュニティが、きっと子育ての良いヒントになるはずですよ。

そして、ママ同士のコミュニティが、きっと子育ての良いヒントになるはずですよ。



（取材を終えて）

子育て中の家族に、笑顔で子育てを楽しんでもらいたいという思いから、今回の特集を企画しました。

取材を通してママたちの話を聞いているなかで、色々な悩みを抱えながら子育てをしているように感じました。ママの笑顔が子どもの心を豊かにし、子どもの笑顔がママの子育てへの糧となり、笑顔が親子の絆を繋いでいるように感じました。

親子が家にひきこもりがちにならないため、友達づくりを始め、虐待や孤独から回避することができるようになります。

町の子育て支援の中から、親子に合う事業を選んで上手に使ってもらえると幸いです。

ここで紹介している方以外にも、たくさんの方々に協力をお願いしたいです。